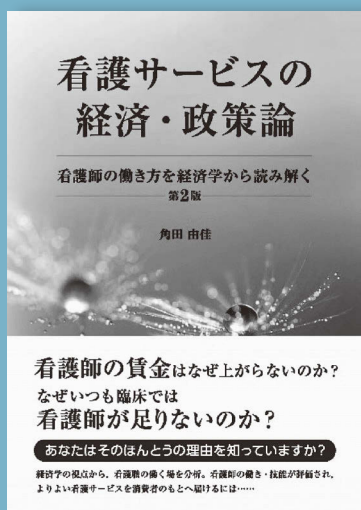


書評

看護サービスの 経済・政策論

看護師の働き方を
経済学から読み解く
第2版



- 編集 角田由佳
- 定価 3740 円（本体 3400 円＋税）
- 判型 A 5
- 頁数 232
- 発行 医学書院

評者

関東学院大学看護学部
教授

金井Pak 雅子

看護サービスの向上につながる マネジメントのヒントが得られる1冊

看護が追求するのは、人々の健康であり、その人らしく生きることを支援することである。一方、経済学が追及するのは、人々のよりよい生活である。これらは究極的には、人々の「幸せ」を探究することにつながっている。このことを学問的に分かりやすく解説したのが本書である。経済学者がこれほどまで看護サービスについて、さらには看護師の働き方や政策に至るまで、客観的データに基づき分析・解説している著書は、日本、いや世界でも類を見ない。

本書は、『看護師の働き方を経済学から読み解く—看護のポリティカル・エコノミー』の改訂版であるが、内容としては、さらに生産性について、「看護」と「看護師」の両側面からの解説、そして看護師のワーク・ライフ・バランスなどを追加している。また、看護師の賃金格差が生じるメカニズムやその実態を人的資本論の観点からデータを用いて詳細に分析している。随所に出てくる経済学者ならではのデータ分析は、著者の論点を力強くバックアップしている。

看護管理学が専門の筆者にとって、「看護の生産性」と「看護師の生産性」の違い、そしてなぜ看護師が他職種の業務を担ってしまうのか、そのメカニズムの解説にとっても興味をひかれた。

「看護の生産性」と 「看護師の生産性」

「看護の生産性」は、物的資源と人的資源を活用し、看護サービスをいかに効率的・効果的に提供するかを追求する。一方、「看護師の生産性」は、人的資源の一部である看護師の労働生産性を指している。日本独特の診療報酬制度という規定では、看護師のスキルレベルはカウ

ントされていない。つまり、新卒であってもベテランであっても人数のみで換算されているジレンマの中、いかに看護師の生産性を向上させるかについて、業務改善や勤務体制の工夫による看護師の労働時間の削減などが提案されている。さらには、看護師の労働生産性を判断する経営指標についても紹介されている。看護管理者には、これら2つの生産性の向上を目指すことが要求されており、そのことを著者は明確に提示している。

看護師が他職種の業務を担うこと

看護師が他職種の業務を担うことは、看護サービスの質を低下させる要因となっていると著者は指摘している。にもかかわらず、看護師が他職種の業務を担っている実態、例えば薬剤の分包、点滴のミキシング、配膳、残食チェックなどに関する分析結果が、分かりやすい図表を用いて解説されている。

さらに、看護師が他職種の業務を担ってしまうメカニズムとは、前述したように、現行の診療報酬制度では看護師配置人数のみが規定されており、技能や業務に関する規定がないこと、他職種の業務のために新たに労働者を雇用するよりも、すでに配置基準に則って雇用している看護師に任せただけが人件費を削減できることに由来する。なるほどと思った次第である。

本書は、看護管理者にぜひお勧めしたい。希少な経営資源である人材の有効活用を図り、対象者の究極の安寧のためにいかに看護サービスの向上を図るか。これらのマネジメントにつながる考え方の基本やヒントが本書から得られるであろう。